

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立巨勢小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和5年4月18日(火)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数・数学、英語)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
 - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

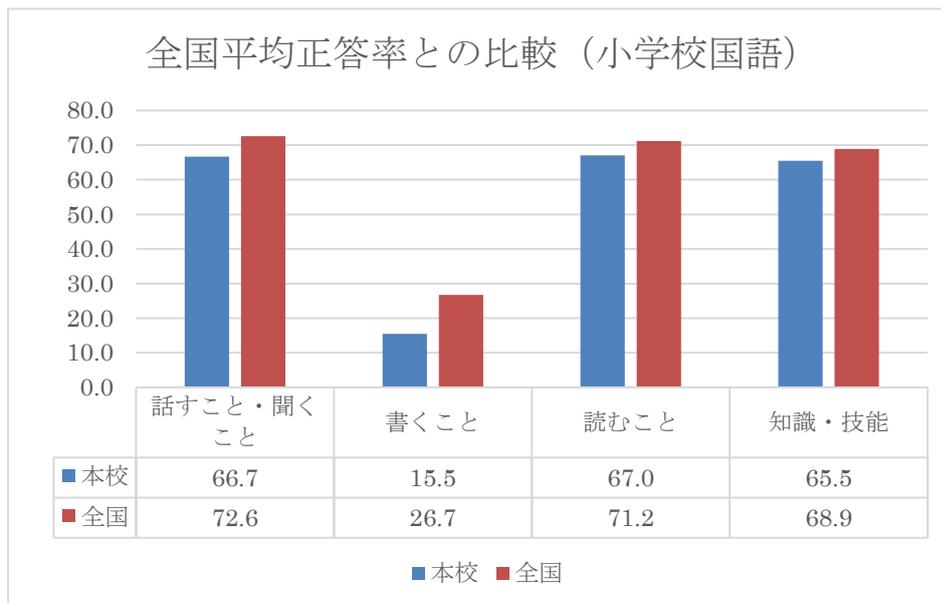
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、英語(中学校)に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の側面」であることをご理解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

全国平均を下回る結果でした。特に「書くこと」が11.2ポイント下回っています。また、無解答率をみると、記述式の問題が、全国平均よりも下回っていました。

(2) 成果と課題

今回の調査で、全体的に平均点を上回ることができませんでした。課題として、国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの内容領域の根幹をなす“言葉の力”の向上が必要です。普段から、漢字や言葉の学習、音読などの習熟をしています。その力を授業の中で生かすことで、学習したことの定着を図ります。さらに、問題形式の「記述式」の正答率を上げることです。記述式問題を苦手にしていく児童が多くなります。児童の記述力を高めることが、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の力を伸ばすことにつながります。単なる「知識」を問う問題ではなく、「思考力・判断力・表現力」を重視した問題が増えていく傾向にありますので、授業改善を通して、日々の授業で力を付けていくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

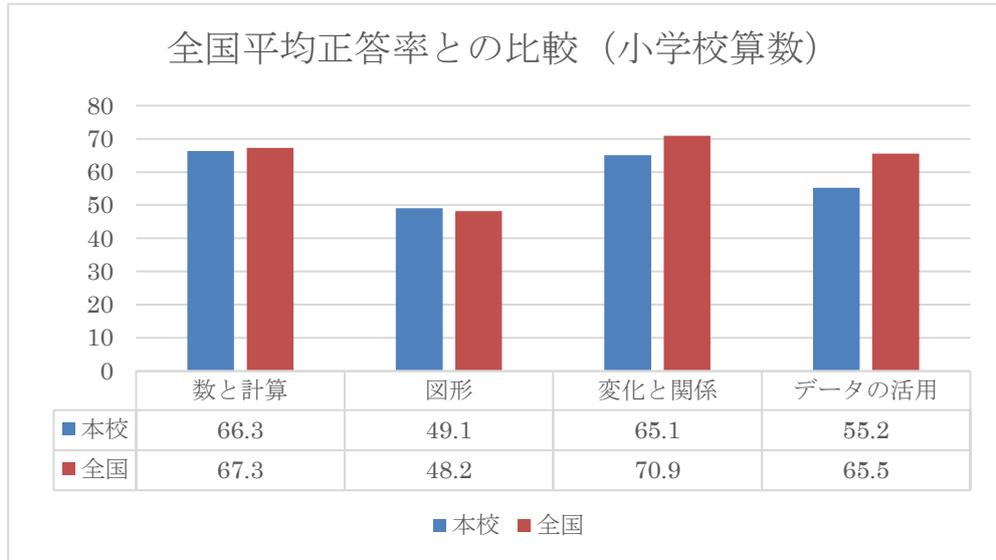
【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子供同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながら書く機会を増やします。
- 漢字の読み書き、音読など知識・技能面に力を入れています。
- インタビュー、話し合い活動など、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。習得した国語の力を活用させる場面を増やすことで、表現力を向上させていきます

【ご家庭では】

- 音読を大切にしていましょ。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしていましょ。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろんな本を読み、いろんな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。市立図書館や本屋に定期的に行くことも、子供の読書習慣をつける上でおすすめです。

2 算数(数学)



(1) 結果

「図形」は全国平均よりやや上回りました。しかし、他の領域では全国平均を下回っています。また、無解答率を見ると、領域によって無回答率が全国平均より低くなっていました。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「数と計算の領域で「(2位数) ÷ (1位数)」の筆算について、図を基に各段階の商の意味を考えることができるかどうかをみる問題の正答率が全国平均を上回っていました。

しかしながら、「データの活用」の領域で、二つのグラフから、30分以上の運動をした日数「1日」と答えた人数に着目して分かることを書くという問題では、例文を基にして説明を記述できる正答率が全国平均を下回っていました。

今後、グラフから読み取れることを、様々な視点で説明できるようにすることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 基本となる四則計算の力が高まるように、復習も含めた計算問題に取り組みさせます。さらに、図形領域において、三角形、台形等の図形の性質について知識の定着を図ります。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を継続していきます。また、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- TT少人数指導、ノートチェック、プリント、ドリル、家庭への課題など、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 算数が好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識するだけで、身のまわりには算数を使えるものが意外とあります。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した児童(生徒)の割合。

《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	83.3%	83.7%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	43.3%	38.1%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	48.3%	55.1%
自分にはよいところがあると思いますか。	31.7%	42.6%
将来の夢や目標を持っていますか。	60.0%	60.8%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	78.3%	75.3%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	86.7%	82.6%

朝食はほぼ全国平均と同じ。就寝は全国平均を上回っていますが、起床については全国平均を下回っています。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていくことはとても重要です。家庭と学校で協力して、習慣化していきましょう。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	15.0%	28.7%
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	5.0%	11.8%
「2時間以上、3時間より少ない」	5.0%	13.8%
「1時間以上、2時間より少ない」	33.3%	31.5%
「30分以上、1時間より少ない」	36.3%	26.9%
「30分より少ない」	13.3%	11.4%
「全くしない」	5.0%	4.6%

家庭学習については全国平均とほぼ同等ですが、まだ1時間未満の児童が3割以上おり、中には全く家庭学習をしていない児童もいました。かなり個人差が見られるので、家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や児童に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。また、自分の目標に向かって、計画を立てて家庭学習を行う習慣についても指導していきます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 学校からは、学年に応じた宿題を出しています。自主学習(自学)については多くの学年で取り組み、お手本になる自学ノートを紹介して、自学の仕方を指導しています。
- 朝の読書タイム、地域と連携した読み語りの「やまびこタイム」を設け、読書を推奨しています。また、図書委員会を中心に読書イベントも行って、読書の機会を増やすための工夫をしています。読書が好きな児童が増えているので、これからも継続していきます。

【ご家庭では】

- 上記の項目の結果について、改善にもなる「家庭学習がんばり週間」が定期的にあります。規則正しい生活と家庭学習の定着は、極めて大切なことです。お子さんが自分からできたとき、少しでも向上したときを逃さず、褒めることで意識が更に高まります。
- 「巨勢小家庭学習の手引き」をご覧になり、学習時間のめやすや、自主学習の説明を参考に、自分で決めて学習できるように励ましてください。